

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090800071		
法人名	株式会社 スマイルケア		
事業所名	グループホーム 千手 (2F アパート千手)		
所在地	〒813-0043 福岡県福岡市東区名島1丁目6番13号 Tel 092-663-9111		
自己評価作成日	平成29年10月20日	評価結果確定日	平成29年12月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 Tel 093-582-0294		
訪問調査日	平成29年11月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム千手は平成21年にオープンしました。「その人らしさを大切に、地域に根ざした介護を」を目指し、ご利用者様と共に支えあったり、ご家族様と共に支えあい、また地域の方にも支えていただき、9年目を来年迎えます。『最後まで千手で暮らしたい』との要望も多く、今年は5人の看取りをしました。ご利用者様が最後の瞬間まで穏やかに過ごせるように、ご家族と心地よい時間が過ごせるよう医療関係者と共にサポートし、温かい空間で看取りをしたいと努めてきました。地域の行事に参加させていただいたり、また、消防訓練に協力していただいたり、地域の方との交流もできています。周りの方への感謝の気持ちを忘れずに、ホーム内の研修の充実やケアの質の向上に今後も努めていきたいと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25.26.27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができる (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20.40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しづつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38.39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32.33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
		実践状況	実践状況	
I. 理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月開催される合同ミーティング、内部研修にて、会社の経営理念やホームの理念、地域密着型サービスの意義を理解や確認を行っている。又、日々のサービスの提供場面を振り返りを行い、ホームの理念が反映されているか確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事・お知らせなどは回覧板にて案内があり、清掃活動やグランドゴルフ大会等に参加させて頂いたり、地域の一員として交流を深めれるよう努めている。又、近隣の方が介護相談に来られることが多く、相談内容を関係機関につなげている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム利用の相談にとどまらず、介護・福祉分野全般の相談に応じている。事業所の持つネットワークを活かして関係窓口につなげている。地域独自のネットワーク作りに参加、協力させて頂いている。又、地域の婦人会の勉強会に参加、認知症ケアの啓発に努めている。	
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者代表、家族代表、自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、ホーム職員等の参加で2ヶ月に1度開催している。会議では、ホームの活動内容や行事報告、地域の情報収集、意見交換を行いサービス向上に努めている。又、地域の方のご協力により、緊急時の協力体制の話し合いや火災訓練を実施することが出来ている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者や地域包括支援センター等へ運営や制度に関する事の、疑問点等をその都度、相談する事で連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は夜間以外は施錠していない。身体拘束についても外部・内部研修を実施し理解を深めている。言葉による抑制やドラックロックについても、勉強会を開いて、職員の意識共有に努めている。ご家族とリスクについて話し合い、安全面への配慮を行いながら、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修会への参加や内部研修を開催し、理解を深め身体的虐待だけでなく、心理的虐待がないよう職員間での意識・徹底に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用しているご入居者がおられる。高齢者の権利擁護に関する研修会への参加や、内部研修を通じて学んでいる。運営推進会議の中でも、地域包括支援センターより情報交換が行われている。必要に応じて、弁護士による無料相談等の案内や資料提供、説明、制度の活用に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約書及び重要事項説明書の内容をご利用者・ご家族に解りやすいような説明を行っている。又、疑問点不安事項についてはその都度、説明を行い同意を得られるよう努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や、行事等でお話ができる場を設け、意見や要望等何でも言って頂けるような雰囲気づくりに努めている。又、出された意見・要望、ご家族の思い等は、その都度、全職員で話し合い、検討や改善を行い、意見や要望を反映できるよう努めている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から、気軽に意見や提案を出来るような関係づくりに努めており、月1回の合同会議、フロアーワークshopでも意見、提案を聞く機会を設けている。又、年2回の人事考課や個別面談も実施している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働くよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、個々の職員の業務状況や悩みを把握している。又、年2回の人事考課を行い職員が向上心を持って働く環境を整えている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用については、性別や年齢、経験の有無等に制限は設けていない。個々の経験を活かし豊かな生活を利用者へ提供できることから、幅広い年齢層を採用している。資格取得についても勉強会を開くなど、奨励している。又、産前産後休暇や育児休暇の取得、学校行事等の参加にも配慮している。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	高齢者の人権・プライバシーについての研修会への参加、内部研修を通じて学んでいる。又、毎月、倫理研究所発行の「職場の教養」冊子を全員に配布、毎日出勤前に読んだり、申し送り、ミーティング等に唱和して人権教育、啓発活動に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部研修へ参加できる支援体制がある。内部・外部研修共に年間研修計画を立て毎月研修会を行い、ケアの質の向上に取り組んでいる。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会、ホスピス緩和ケア・ネットワーク福岡等への参加や近隣施設情報交換などの交流を図り、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人やご家族の思い、希望や要望・不安に思う事を受け止め、ご本人の求めていることや不安を理解しようと工夫している。入居後も、ご本人の不安や要望を把握し、ご本人が安心して生活できる環境作りに努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの生活歴や習慣など、ご家族や担当ケアマネからサービス開始前に伺うようにしている。可能な限り、自宅にお伺いして、状況・要望を確認している。日々の生活の中でも、ご本人・ご家族から情報収集し、スタッフ間で共有するようにしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、ご本人やご家族の思い、状況を確認し、改善に向けた提案、信頼関係を築きながら必要なサービスにつなげられるよう支援している。早急な対応が必要な方には、他の事業所や関係機関につなげるなどの対応をしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場における、暮らしを共にする者同士の関係を築いていく	ご本人の得意とされている事を生活の中に取り入れ、役割を持って頂けるようにしている。職員も一緒に家事を行い、共に支えあう家族として、信頼関係が築けるよう努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場における、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の居室にご家族の写真を飾ったり、電話やメール、面会時に日頃の様子を伝えたりとご本人・ご家族がいつも傍に感じられる関係つくりを目指している。ご家族と共にご入居者をサポートしたり、時にはご家族の支援もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご親戚や知人の方がいつでも面会でき、遅い時間帯でも出来る限り対応するようにしている。ご本人が大切にしている家族の写真を飾ることで、家族が身近に感じられたり、自宅への帰省のお手伝いなども行っている。また、電話や年賀状のやり取りも支援し、関係が継続できるようにしている。		
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	余暇活動や家事を通じて、他入居様とも交流が持てるように支援し、心身状況に応じて、席の配置やパーテーションを使用している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、故人を思い写真をホームに飾ったり、電話で近況をお伺いしたり、法要に自宅に訪問している。ご家族とも思い出話をしたりと今までの関係性を大切している。ご家族からの相談があれば、対応している。又、ホームに訪問して下さるご家族も多く、グリーフケアに努めている。		

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや意向は、日々の会話の中や表情から把握するようにしている。ご本人からの聞き取りが難しいときは、ご家族の意向も踏まえて、体調や生活のリズムに合わせて、本人本位に努めるように心掛けている。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や習慣など、ご家族様や担当ケアマネからサービス開始前に伺うようにしている。また、可能な限り、自宅にお伺いして、状況を確認している。日々の生活の中でも、ご本人・ご家族から情報収集し、職員間で共有するようにしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムや心身状況の変化・気付きは毎日の申し送りで共有し、臨機応変な対応を心掛けている。毎月のミーティングでもご入居者ごとに、心身状況の変化、ケアの方法など確認し合っている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中で、ご本人・ご家族の意向や要望をくみ取るように努めている。気づきや思い、意見等を出し合い、ケアプランに反映させるようにしている。又、毎月のミーティングで、カンファレンスを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者ごとの個別の記録や状態観察・医師による指示を記録するケア日報を使用して、気付きやケアの実践・結果を記載している。毎日の申し送りや毎月のミーティングにより職員間で共有し、ケアプランに反映させている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状況により、必要な通院や病院への付き添い、外出、外泊など、ご家族からの要望、相談に対して、柔軟に対応している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議には自治会長・民生委員・地域包括支援センター職員に参加して頂き、地域の・行政からの情報収集を行っている。また、グループホームとして地域の方にできることについても要望を伺い、今後取り組めることを共に検討している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の希望に応じて対応している。基本的には外来受診は、ご家族にお願いしているが、状態、状況に応じて、職員が同行して対応している。又、24時間相談可能な医師により緊急時にも対応できるようにしており、医師からも必要時には電話や往診時にご家族にも直接説明してもらうように支援している。ご本人、ご家族の希望、不安等も主治医に伝え、安心・安全に生活が出来るよう支援している。		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1～2回、看護職員を配置し健康管理に努めている。24時間オ nコールで緊急時にも対応できるようにしている。看護職員には、申し送りで入居者様の健康状態の経過を伝え、看護職員にも状況把握してもらっている。医療やケアの方法なども相談している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるよう、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。 あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはご本人の心身状況を病院関係者へ情報提供を行い、入院中もお見舞いを重ね、ご本人の状態把握に努めている。早期退院にむけ、病院関係者、ご家族に相談したり、カンファの開催があれば、参加するようにしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方については、契約時にご本人・ご家族に説明している。終末期については、ご本人・ご家族・主治医・看護師・職員との方針が共有できる体制を作っている。状態に合わその都度、ホームで出来る事を確認し、ご本人が安楽に過ごして頂けるように他職種等のチームで支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時・急変時のマニュアルを作成し、職員全員が対応できる体制を整えている。急変時の対応についてミーティングでも確認を行っている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力・立ち会いにて、年に2回の消防訓練を(避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方等)行っている。年1回は地域の方に参加して頂き、協力体制の確認をしている。運営推進会議でも災害対策について話し合いの機会を持っている。又、災害時に備えて、食料、飲料水等5日分の備蓄やマニュアルも作成している。		

IV. その人らしい暮らしを続けるため日々の支援

38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の気持ちに寄り添い、ご本人の気持ちをくみ取るようにお声かけしている。個人情報の保護やプライバシーについても、研修を定期的に行っている。		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの状態に合わせ、ご本人の希望や自己決定がしやすいように声掛けしている。選択の中から選んでいただいたり、表情から読み取るように努めている。ジェスチャーを取り入れたりや文字の方が伝わりやすい時は筆談をしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活のリズムや体調に合わせて、生活して頂くように、起床や就寝の時間、食事の時間も配慮している。習慣や睡眠時間なども考慮し、ご本人のペースを大切に考えている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	室温により衣類の調整を行い、ご本人の洋服の好みに合わせた、その人らしいおしゃれが出来るように支援している。髪型も、訪問美容により、好みの長さやカラー・パーマなど、ご本人の意向を取り入れている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備・片付けはご入居者と共にを行い、職員、ご入居者が同じテーブルを囲んで楽しく食事できるよ霧囲気づくりも大切にしている。又、誕生日会には、ご家族にも参加して頂き、ご本人が好きなもの・食べたいものを準備し、食事が楽しめるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調や食事摂取量・水分量を把握している。摂取量の少ないときは、好まれる食事を提供したり、食事の時間帯以外でも対応している。食事の飲み込みの状態に合わせて、食事の形態も工夫している。又、主治医、言語聴覚士、管理栄養士等に相談、アドバイスをもらっている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア時には、一人ひとりの状態に合わせた歯ブラシや舌ブラシ・スポンジを使用している。磨き残しや歯間ブラシは職員が介助している。口腔内の状態に応じて、歯科医に相談し職員へ指導をしてもらっている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人の排泄パターンやご本人からのサインを把握し、トイレで排泄できるように支援している。時間帯によりパットの種類を変えて対応している。便座に座られる際は、ひざ掛け等を使用、さりげない介助を心掛けている。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄シートにて、排泄状況やパターンの把握に努めている。水分の確保や食物繊維の多い食品を取り入れ、自然排便となるよう支援し、適度な運動も取り入れている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴可能で、ご本人の希望にあわせて入浴が楽しめるようにしている。入浴を拒まれるときは、時間帯や曜日を変え、体調により入浴が難しいときは、部分浴や清拭などに変更している。一人ひとりの状態に合わせた入浴を支援している。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の習慣や心身の状態に合わせて就寝でき、日中も休憩が出来るようにしている。室温の管理や日中の活動により、安眠できるように支援し、眠れないときもスタッフとの会話により安心して過ごせるようにしている。睡眠時間が短いときは、起床時間も遅めに対応している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報は個人ごとのファイルに綴じ、往診後は薬剤情報をスタッフで回覧し、薬の内容や変更を確認している。また、申し送りやケア日報でも確認しあい、薬変更後は経過観察し、主治医にも報告している。また、薬剤師訪問日にも、経過報告や薬についての相談も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や楽しみ事、もっている力を把握し、生活の中で役割や楽しみの機会を持っていただくようにしている。感謝の気持ちを伝えたり、入居者様・スタッフで共に会話をしたり、楽しみを分かち合うようにしている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外にかけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自宅に帰省をや水族館など、提案したり、外出希望があり、個別に対応している。ご家族、職員が協力して外出・外泊の支援をしている。ご入居者の重度化により、日常的な外出も難しくなってきているが、天候の良い日は、玄関迄出、外気浴、気分転換できるよう支援している。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の安心感や満足感が得られるよう、少額の所持金を持って頂いている方もいる。ご家族と相談しながら支援している。ご本人の状態に応じて、預かり金規定により管理している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の気持ちを尊重し、ご家族と話したい時や必要時には電話を出来るようにしている。電話があった際には、ご本人と話をして頂いたり、会話が難しいときはスタッフが仲介に入り支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂兼リビングはご入居者が長く過ごす場所で、職員も調理と一緒にしながら会話をしたり、体操をしたりと居心地のよい場所を心掛けている。また、リビングの窓からは屋外が見え季節感も感じることができ、室温管理や匂いにも配慮し、快適な空間となるように努めている。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご入居者同士で話が出来たり、時には一人で過ごせるよう、席の工夫や、テーブルの移動、パーテーションを使用し、居心地のよい環境が出来るように工夫している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ご本人の使い慣れた家具などをお持ち頂き、馴染みの物を置くことで心地良く過ごして頂いている。ご本人の状態に応じて、ご本人、ご家族と相談しながら、家具の配置を変え安全性・利便性を検討している。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の出来る事、わかる事を把握し、必要な目印をつけたり、物の配置に配慮している。又その人らしく、安全に出来るだけ自立した生活が出来るようにフロア内の環境整備をし、建物内部の事故防止に努めている。		